

【統一様式】

# 熊本労災病院が担う 役割について

平成30年3月12日 熊本労災病院

### 【自施設の現状と課題】

#### 当院の現状

##### < 理 念 >

良質で信頼される医療を目指します。

##### < 基本方針 >

- 1 地域の人々と働く人々の健康を守ります。
- 2 地域医療機関と連携を図り、急性期医療、災害とがんを中心とした高度専門医療を担います。
- 3 患者の権利を尊重し、患者中心の医療を提供します。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 当院の現状

#### < 診療実績 >

届出入院基本料  
一般病棟（7対1）入院基本料 404床  
I C U 6床

平均在院日数  
14.4日（平成28年度実績）

#### < 当院の特徴 >

救急医療を中心に高度急性期医療、急性期医療を担う  
医療機関。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 当院の現状

#### < 主な指定 >

救急告示病院、災害拠点指定病院、熊本DMAT指定病院  
がん診療連携拠点病院（国指定）、  
基幹型臨床研修病院、地域医療支援病院

#### < 職員数 >（30年1月1日現在）

医師	87人
看護職	398人
医療職	95人
事務職	48人
技能職	26人
計	654人

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 当院の現状

#### < 当院が担う政策医療 >

##### 【がん】

国指定の地域がん診療連携拠点病院として、外科的治療、化学療法、放射線治療、緩和ケア、医師・看護師及びセラピストのチームによるがんリハ、両立支援等に取り組む。

##### 【脳卒中】

神経内科診療体制による超急性期血栓溶解療法（t-PA療法）への対応。

##### 【急性期心筋梗塞】

熊本県急性心筋梗塞急性期拠点病院として、専門的医療の提供。血管撮影装置更新（2017年度、2019年度）による高水準の医療機能の維持、救急搬送患者の受入れ。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### < 当院が担う政策医療 >

#### 【救急医療】

他の圏域への患者流出を防ぐため、「断らない救急」の実践。ヘリポートを活用した広域救急医療への貢献。今後、救急専門医による救急部門新設を目指している。

#### 【災害医療】

災害拠点病院、熊本県D M A T指定病院として、熊本地震における地域医療の支援及びD M A T派遣による災害医療活動の実践経験を活かし災害医療に取り組む。平成29年度にD A M T派遣体制を2隊に増設し、さらなる災害医療体制の充実を図る。

#### 【周産期医療・小児医療】

熊本県地域産科中核病院、小児初期救急医療病院として、八代医療圏で唯一の産婦人科と小児科を有する病院機能を発揮し、安全で安心な周産期・小児医療を継続。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### < 当院が担う政策医療 >

#### 【感染症（結核）への対応】

八代地域における結核治療機能を維持するため、「結核患者収容モデル事業」を導入し、結核診療機能を担う。

#### 【勤労者医療（予防医療）】

健康診断部門の体制を整備し、勤労者医療を発展させ、地域医療を担う中核病院として予防医療活動を拡充していく。

#### 【治療と仕事の両立支援】

独立行政法人労働者健康安全機構が推進する「勤労者医療」として、平成26年4月から「治療就労両立支援部」を開設。両立支援コーディネーターを配置し、患者と病院、事業場とをつなぐ支援や、がん患者を対象とした「両立支援相談窓口」を開設し、両立支援に関する相談対応を実施。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 当院の現状

#### < 他の医療機関との連携 >

- ・ 開業医や介護施設等との連携をさらに深めるため、医療従事者に対する教育・研修会を実施。
- ・ 地域医療支援病院としてさらに地域医療に貢献するため、地域医療支援病院運営委員会を開催し、行政機関や医師会等との医療の提供に関する検討や意見交換等を行う。
- ・ 退院調整看護師、社会福祉士（MSW）増員による後方支援医療機関との連携機能を強化。
- ・ 患者情報共有を目的として開始された熊本県地域医療等情報ネットワーク「くまもとメディカルネットワーク」に参画。県内の医療機関や介護施設、薬局等とのICTによる情報共有化を推進。



# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 当院の課題

#### 高度急性期機能の拡大

地域医療構想において53床不足とされている高度急性期機能を担う必要性。

#### 回復期（後方支援病院）の確保

地域医療構想において、回復期病床が148床不足。当院が高度急性期、急性期医療を担う上で、受け皿となる医療機関の確保が必須。

#### 医師・看護師等医療スタッフの確保

当院が、今後も高度急性期・急性期機能を担うに当たり、救急専門医確保による救急部門の充実、脳神経外科医確保による外傷救急患者の受入れが課題。

また、医師をはじめとする医療従事者の働き方改革を推進するに当たり、タスクシェア、タスクシフト、業務負担軽減の観点からも医療スタッフの確保を進める必要あり。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

地域医療支援病院として、地域の開業医や介護施設等との連携をさらに深めるため、医療従事者に対する教育・研修会を引き続き実施するとともに、退院調整看護師、MSWを増員し、後方支援医療機関との連携機能を強化する。

救急医療について、他の圏域への患者流出を防ぐため、「断らない救急」を継続。ヘリポートを活用した広域救急医療への貢献するため、救急専門医を確保し、救急部門を新設する。脳神経外科医を確保し外傷系救急患者の受入体制も整備する。

災害拠点病院、熊本県DMAT指定病院として、DAMT派遣体制を2隊に増設。定期的な災害訓練を実施するとともに、行政機関とも連携して、八代医療圏における災害医療の中核病院としての役割を担う。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

地域がん診療連携拠点病院として、さらなる外科的治療、化学療法、放射線治療、緩和ケア、医師・看護師及びセラピストのチームによるがん患者リハビリテーションを実施するとともに、がんの治療と仕事との両立に悩む患者や家族に対する「両立支援」にも積極的に取り組む。

八代市立病院廃止後の八代地域における結核治療機能を維持するため、「結核患者収容モデル事業」を導入し、結核診療機能を担う。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	6	6	57
急性期	404	404	353
回復期			
慢性期			
その他			
合計	410	410	410

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

高度急性期機能 5 7 床

- ・ 集中治療室 (ICU) 6 床
- ・ 循環器、心臓血管外科病棟 5 1 床

急性期機能 3 5 3 床

- ・ 一般病棟 (7 対 1) 入院基本料 4 0 4 床  
うち、高度急性期機能 (5 1 床) を除く  
3 5 3 床

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【 診療科の見直し 】

	現時点 (30年1月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、呼吸器内科、消化器内科、 糖尿病・代謝内科、神経内科、精神科、 循環器内科、小児科、外科、消化器外科、 整形外科、形成外科、脳神経外科、 胸部外科、心臓血管外科、皮膚科、 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、放射線科、 病理診断科、麻酔科	内科、呼吸器内科、消化器内科、 糖尿病・代謝内科、神経内科、精神科、 循環器内科、小児科、外科、消化器外科、 整形外科、形成外科、脳神経外科、 胸部外科、心臓血管外科、皮膚科、 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、放射線科、 病理診断科、麻酔科	
新設	-	-	
廃止	-	-	
変更・統合	-	-	

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(30年1月時点)	2025年
病床稼働率	84.2%	88.5%以上
紹介率	69.1%	70%以上
逆紹介率	72.7%	70%以上

### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 【取組みと課題】

#### 病床稼働率

- 急性期である救急入院患者を受け入れるため、救急専門医を確保し救急部門を新設する。また、脳神経外科医を確保し外傷系救急患者の受入体制も整備する。

#### 紹介率・逆紹介率

- 入院予定の患者が入院から退院後の生活まで安心して医療を受けられるための切れ目のない支援を行うため、「入退院支援センター」を設置する。
- 地域医療支援病院として、当院から回復期病院等への転院のみならず、患者急変時には当院が開業医等からの受入れを円滑に行うため、医師会や近隣医療機関・施設等との連携を深める。



## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 【取組みと課題】

地域医療構想において、八代区域は急性期病床が過剰とされているが、高度急性期機能は不足している状況において、当院は、長年、八代医療圏での急性期医療を担ってきた立場として、今後も地域の回復期、慢性期を担う医療機関と連携しながら、急性期機能を維持していく方針である。

急性期機能を維持していく上で、手術室を含む旧棟（築後27年）の老朽化、医療機器の老朽化によって診療機能低下を来たさめよう計画的に建物及び機器の整備を行っていく。

地域医療構想調整会議や平成30年度の動向を踏まえながら、地域が求める当院の運営の在り方等について、引き続き検討していく。